

インドネシアの金利引き上げについて

2013年9月13日

インドネシア中央銀行は9月12日(現地時間)に追加利上げを発表しました。政策金利であるBILレートは0.25%引き上げられ7.25%となりました。同時に翌日物預金ファシリティー金利(FASBI)を5.50%(+0.25%)としました。

8月29日(同)にも利上げが実施されていたため今回の金融政策会合では据え置かれるとの見方が多く、予想外のことであったためインドネシア・ルピアは一時反発しましたが、長くは続かず、対ドルでは2009年4月以来の低水準にとどまっています。

《最近のインドネシア・ルピアの動向》

インドネシアでは比較的好調な内需を受けて輸入が増加する一方、鉱物等の輸出の減少もあり経常収支の赤字幅が拡大しています。また、米国QE3の縮小が9月より開始されるとの観測が強まる中、米国金利の上昇を受けて同国へ流入していた緩和マネーの還流が始まるとの見方も加わり、今年7月中旬以降、同通貨は大幅に下落しました。

自国通貨の下落に対して、中央銀行は金融市場オペレーションの強化、長期的な通貨価値の維持、銀行監督制度の導入などの安定化策を、また政府は輸出業者による外貨購入についての規制を緩和しドル流動性の確保を目的とした措置の導入、企業向け税優遇措置の拡大、一部輸入品への増税、鉱物資源の輸出緩和などからなる緊急経済対策を発表しました。これらの施策に加え、為替市場への介入にもかかわらず、インドネシア・ルピアの下落基調に変化はみられませんでした。そのため8月29日には緊急利上げが実施され、漸く下落にも歯止めがかかりましたが、依然として不安定な状況が続いていました。

《追加利上げの狙い》

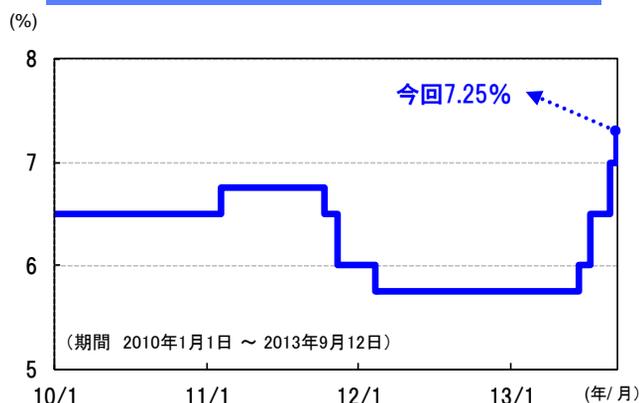
今回の利上げを含め6月以降の利上げ幅は1.5%に達しています。インドネシア中央銀行は追加利上げの目的として①為替レートの安定化、②持続的な経常収支の改善、の2点を挙げています。市場では既に米国のQE3縮小開始を相当程度織り込んだとみられますが依然不安定な状態が続いており、開始決定に先んじて自国通貨安に歯止めをかけるため、利上げを実施したとみられます。

インドネシアでは政府・中央銀行が経常赤字の削減と通貨防衛に強い姿勢を示したことで市場のセンチメントが変化してくる可能性もあります。また先日のG20でも米国の量的緩和の縮小に対するけん制がみられました。米国量的緩和の縮小開始時期について発表もしくは何らかの示唆があると予想されるFOMCが接近しているため、弊社では今後とも同市場動向に注視してまいります。

なお、見通しについては弊社ホームページ掲載「インドネシア・ルピアの急落と市場金利の上昇について」をご参照ください。

http://www.myam.co.jp/up_pdf/20130826154201_f.pdf

《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《インドネシア・ルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。